

て被函の地名といふ(も古今を海と名
ふ人多し)按さるに新田長川の館を責め
され通函よりて合戦一々ゝに流矢ふり
より多海三郎の柵を死し一々事を書
傳へる文也

古人多海三郎を海山は楯籠一と云傳へり
多の海は南卑まふは古よりたふは禰
々表よりあり神池の末をつめて要害と
しりりもや多の海は下なるの内は陣屋と
いつる所あり是を考れば宗任亦官軍に責

せられ將の月け山は楯籠一々事もありし
もや并立つ倉敷といふ所もありを平家理郡
の楯は福倉嶽はせりて大木を伐りて朽
木の中より玄奥出るとを述べけ山は
内より合戦一々事疑が一といふへ
福倉嶽を生理郡より平家山といふ
王代一説曰康平五年九月六日源頼義衣
河の関を責め負任多海の柵一攻十一
日多海を攻同十七日厨川の柵を攻て拒戦
安玄并を以て負任を責め倒せと云々宗任は